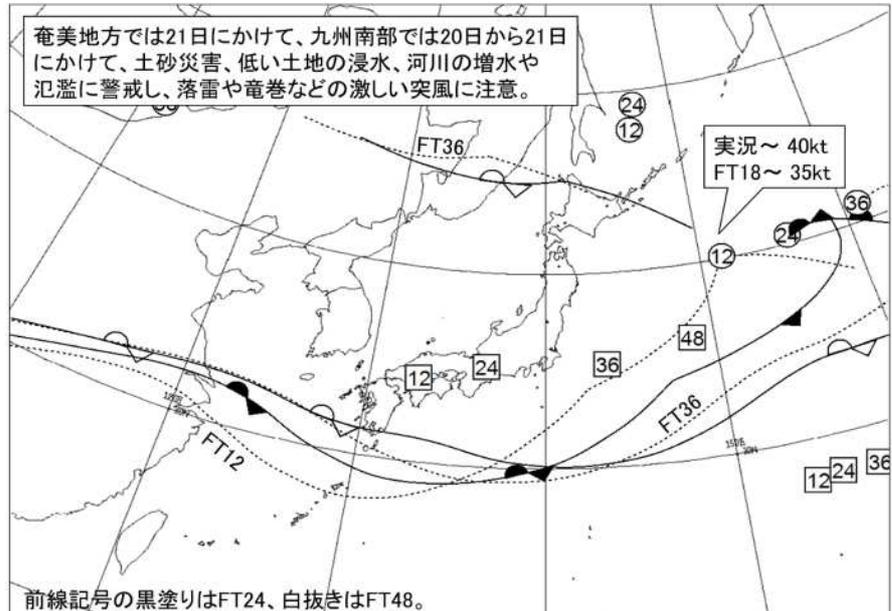


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa5760～5820m のトラフに対応する低気圧が日本の東を東北東進し、低気圧からのびる前線が伊豆諸島と奄美地方を通過して華中へのびている。前線に向かって太平洋高気圧縁辺の下層暖湿気が流れ込み、伊豆諸島や南西諸島では大気の状態が不安定となって、海上で激しい雨を解析、発雷を検知。
- ② サハリンには 500hPa5520m 付近の寒冷渦直下の低気圧があって、低気圧からのびる地上シアラインが北海道地方を通過。北海道地方では 500hPa



主要じょう乱解説図

-15°C以下の寒気が流れ込んで大気の状態が不安定となり、発雷を検知していたが、活発な対流雲は海上に抜けつつある。

- ③ ①の低気圧の影響で、東日本太平洋側では波が高く、伊豆諸島ではしけとなっている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の伊豆諸島付近の前線は今後南下するが、伊豆諸島では19日朝にかけて落雷や突風に注意。また、500hPaでは20日にかけて沖縄の南で亜熱帯高気圧の張り出しが強まり、1項①の前線は、19日は南西諸島を次第に北上し、20日から21日は九州南部付近で停滞。奄美地方では21日にかけて、九州南部では20日から21日にかけて850hPa θe 345K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となって、雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 500hPa5760～5820mのリッジに対応する高気圧が20日にかけて東シナ海から本州付近を通過して日本の東に移動。本州付近は19日は高気圧に覆われておおむね晴れるが、20日は高気圧縁辺の南よりの湿った空気の流入により、西日本から東日本の山沿いを中心に大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、短時間強雨に注意。
- ③ 1項①の低気圧は、日本から次第に遠ざかるが、東日本太平洋側では19日昼頃にかけて高波に注意。
- ④ 20日は北海道付近で500hPa5700m付近の強風軸に対応する前線が顕在化。北海道地方では21日にかけて大気の状態が不安定となる所がある見込み。対流雲の発達に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠]

- ①大雨ポテンシャル(06時からの24時間):九州南部・奄美100mm。

②波浪(明日まで):伊豆諸島4m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。